

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00395

研究課題名(和文) アジア系アメリカ演劇におけるアメラジアン(混血)性の研究

研究課題名(英文) A Study of Amerasians in Asian American Drama

研究代表者

古木 圭子(Keiko, Furuki)

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：80259738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、アメリカにおける混血人種の研究史を踏まえ、アジア系アメリカ演劇およびアメリカ演劇史全般における「アメラジアン」(アジア人とアメリカ人の混血)の要素を考察し、アジア系、エスニックおよびマイノリティのアメリカ演劇の再定義を行った。特にアメラジアンという呼称を広く知らしめたHasu Houston(1957-)の戯曲を中心に、アジア系の戯曲上演を中心とする劇場および、いわゆる「メインストリーム」の劇場におけるアメラジアン劇作家の戯曲の受容状況について調査を進め、21世紀アメリカ文学における人種、エスニシティの境界という問題を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究の主たる目的は、アメラジアンの劇作家による戯曲とアジア系(日系、中国系、フィリピン系など)の劇作家の戯曲の比較を試み、アメリカ文学(演劇)における人種分類の問題を、混血研究を通して再考することである。アメリカ文学研究の場においては、「アジア系」、「アフリカ系」、「ユダヤ系」あるいは「アメリカ南部」というように、人種、民族、地域により各作家の作品研究を分断する傾向が強いが、本研究は、混血をキーワードに、各人種や民族、そして地域の越境を試み、アメラジアンから、アジア系、アメリカ文学へと視点を拡張してゆく点において独自性と創造性を有している。

研究成果の概要(英文)： This study examines the plays of Velina Hasu Houston (1957-), who defines her ethnic identity as “Amerasian” (Asian and American), in relation to the histories of both minority and “mainstream” American drama. It also focuses on the relationship between the characters’ locality and their ethnic backgrounds and reconsiders the significance of “local theatre” represented by Kumu Kahua Theatre in Hawaii by discussing and analyzing the plays of such Asian American playwrights as Edward Sakamoto (1940-2015), Wakako Yamauchi (1924-2018) and Philip Kan Gotanda (1951-). Finally, this study articulates that, due to the inclusion of Amerasian elements, today’s American drama has a potential to “transborder” conventional Asian American drama.

研究分野：アメリカ演劇

キーワード：アメラジアン ローカリティ マイノリティ演劇 エスニシティ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当時の2018年度においては「アジア系」という枠組みそのものを、異人種間結婚による混血の人びとの増加によって捉えなおす必要が生じてきている現状がみられた。本研究における第一の問いは、アメラジアンという用語が示す人種・民族・文化的定義と、その人びとの社会的立場に関するものである。1960年代後半のアジア系アメリカ人運動の台頭以来、アジア系アメリカ人は各エスニシティの文化、伝統、コミュニティに基づく政治性を主張してきた。1990年代以降の異人種間結婚の急激な増加により誕生した混血の人びとは、人種混合の理想を謳うアメリカの新たな「顔」とされる一方、人種の分類の明確化を余儀なくする社会において孤立することもある。そのような矛盾を抱える彼らの歴史と現況を探ることは、アメリカ文学における人種問題を再考することに繋がるものであり、アメリカ文学および演劇研究に新たな視座を提供すると考えた。

第二には、アジア系を始めとするマイノリティアメリカ文学(演劇)とアメラジアン文学(演劇)の差異を探ることがあった。1990年代以降のアメリカにおける混血研究の多くは黒人と白人の“biracial”を主対象とし、アジア系とその他の混血人種の政治性や文化的特質について十分掘り下げられてはいなかった。一方、アメラジアンとみずからを称する劇作家 Velina Hasu Houston (1957-) の活躍はめざましく、戦争花嫁の視点を中心に日系家族を描いた三部作 *Asa Ga Kimashita* (1981)、*American Dreams* (1984)、*Tea* (1987) を始めとして、家族関係における人種、ジェンダー、異文化の衝突などの問題提起を行い、2000年以降は、*Necessities* (2001)、*The Peculiar and Sudden Nearness of the Moon* (2006)、*A Spot of Bother* (2008)、*Hum the Bee* (2014) などの戯曲において、混血の登場人物が純血主義の社会において直面する問題をフェミニスト的視点から照射している。

Houston の戯曲と声明に触れることは、「アジア系」という表現が異文化受容の性質を有することが自明だとする当時の研究動向を再考するきっかけとなった。さらに、アメリカ演劇における混血研究を進めてゆくことは、アメリカ演劇の古典とされている Tennessee Williams (1911-1983)、Arthur Miller (1914-2005) などの戯曲における移民や人種の問題を再考し、アメリカ演劇史の流れを捉えなおすことにもなる。たとえば、Williams の代表作 *A Streetcar Named Desire* (1947) には、アメリカ南部におけるフランス系、ポーランド系、アフリカ系人種の共存と確執の問題が提示されており、Miller の *A View from the Bridge* (1955) には、違法イタリア系移民の切迫した状況がギリシア悲劇の手法に準えて表現されている。しかしながら、これらの劇作家による人種問題の扱いについては、先行研究において十分論じられているとは言い難い。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、アメリカ文学(演劇)における人種分類の問題を、混血研究を通して再考することであった。研究開始当時のアメリカ文学研究の場においては、「アジア系」、「アフリカ系」、「ユダヤ系」、「アメリカ南部」というように、人種、民族、地域により各作家の作品研究を分断する傾向が強いが、本研究は、各人種や民族、地域の越境を試み、アメラジアンから、アジア系、アメリカ文学へと視点を拡張してゆくことであった。

Houston は、みずからのアメラジアン性を両親の異なる人種性の混合ではなく、独自の混血性であるとするが (Janette 144)、その人種的背景は、アメリカのいわゆる「エスニック演劇」のあり方に挑戦を挑むものでもある。彼女の戯曲は、その人種分類が明確でないために、アジア系アメリカ演劇を主体とする劇場では受容されないこともある一方、白人の観客が多い劇場では、好評を博したという状況もあるからである (Lee 146)。この状況は、人種による偏見を撤廃し、マイノリティの劇作家、演出

【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

家、俳優に門戸を開くはずのエスニック演劇が、アメラジアン(アフリカ系アメリカ人)の劇作家を実は排除しているという矛盾を吐露している。Houston の戯曲については、小林富久子が「戦争花嫁」とアメリカ純血主義の対立という視点から、原恵理子がジェンダーポリティクスと演劇における身体表象という視点から画期的な論考を公表しているが、本研究では、これらの先行研究において詳しく取り上げられていない混血性と女性(特に母と娘)の連帯および父親(男性パートナー)の不在という問題、そして、家族において異なる人種が共存する状況と多文化・多民族性の形成との関係について、主に Houston の 2000 年以降の作品を中心に考察してゆくこととした。

3. 研究の方法

2000 年以降の Houston の戯曲にみられる母娘の連帯と女性の自立、父親不在などの要素は、Tennessee Williams の *The Glass Menagerie* (1945) などにも顕著にみられる点において、アメリカ演劇の伝統を踏襲している。しかし、彼女の描く登場人物は、自らの人種性をポジティブに捉えることによって女性同士の連帯感と自立心を強め、男性「不在」の世界を敢えて選択するという点に独自性があり、混血に対する人種的偏見への批判と共に、ジェンダー間の偏見についても批判的眼差しを内包する。以上の点から、アメラジアンの人種性とジェンダーのあり方について考察を進めた。

さらに、Houston が描く場所と人種の問題について考察した。Houston は、*Asa ga Kimashita* ではアメリカへの移住前の日本人家族、*American Dreams* ではアメリカに住む戦争花嫁、*Tea* ではカンザスの異人種夫婦の妻を主人公としている。*A Spot of Bother* の舞台設定はロンドンであり、白人と東インド系の混血女性が主人公であるが、イギリスは、母娘の連帯が強調される点で歴史性と連続性の象徴である一方、アメリカは、男性の逃亡と家族からの離脱という意味において断続性を表す。上記の観点から、Houston が描くアメリカ、イギリス、日本という「場所」と人種性の関連を探った。

Houston と日本の関係についても調査を進めた。*Tea*, *Kokoro* (1994), *Calling Aphrodite* (2003), *Calligraphy* (2010) にみられるように、日本を舞台にしたものや日本の伝統、慣習を題材にした作品が Houston には多くみられる。基盤研究 C 「アジア系アメリカ演劇における日本演劇および日本文学の要素について」(2015~2017 年度)において、日系アメリカ人劇作家 Chiori Miyagawa の戯曲研究を進めたが、仮面や音楽、日本文化を示す小道具や舞台装置の使用など、両者の戯曲には多くの共通点が見られることから、両者の戯曲の比較を試みた。

4. 研究成果

本研究では、アメリカにおける混血人種の研究史を踏まえた上で、Velina Hasu Houston の戯曲研究、ハワイのローカル演劇、1965 年に設立された East West Players の創立から現在までの状況、Chiori Miyagawa を始めとする 1.5 世代のアジア系アメリカ人劇作家、さらに、いわゆる「メインストリーム」の劇場におけるアメラジアン(アフリカ系アメリカ人)の劇作家の戯曲の受容状況について調査を進めた。それにより、現在のアメリカにおけるエスニック演劇が、ある一定の人種・民族、国境をも超越する「トランスボーダー」の要素を有し、「アジア系アメリカ演劇」の枠を超えた可能性を持つことを明らかにした。

2018 年度

2018 年度は、主として Velina Hasu Houston の戯曲研究を行った。主な研究実績としては、2018 年度 6 月に日本演劇学会大会において、「ヴェリナ・ハス・ヒューストンの戯曲にみる多文化多人種の象徴としての茶の役割」という題目で日本演劇学会の全国大会にて研究発表を行い、*Tea* および *A Spot of Bother* における多文化多人種の象徴としての茶の劇的要素について考察した。その議論においては、*A Spot of Bother* は、混血人種と未婚の母への偏見を乗り越えて自立の道を切り開く母娘の連帯

【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

を描き、*Tea* は二重のマイノリティとして偏見に耐える戦争花嫁の苦悩と闘いを描く作品であることを分析し、混血人種をポジティブに捉え、そのハイブリディティの可能性を開拓するヒューストンの両戯曲は、アジア系アメリカ演劇の流れを変える力を持っているという結論を導いた。さらに、英米文化学会の「アジアパシフィックの劇場文化分科会」にメンバーとして加わり、アメリカ西海岸およびハワイの劇場文化についての研究を進め、2018年9月の英米文化学会大会において、ハワイの「ローカル演劇」の上演を積極的に進めてきたKumu Kahua Theatreの歴史と意義、および当劇場とEdward Sakamoto (1940-2015) の戯曲との関係について考察を進めた。

2019年度

2019年度においては、ハワイのローカル演劇およびアジア系アメリカ演劇の上演を担う Kumu Kahua Theatre (以下 KKT) を主たる研究対象とした。KKT の上演作品のほとんどはアジア系アメリカ人劇作家のものであるが、KKT で活躍していたハワイ出身の Edward Sakamoto の戯曲が、ロサンゼルス東部の East West Players (以下 EWP) やニューヨークの Pan Asian Repertory Theatre のようなアジア系アメリカ演劇の劇場で上演され、本土出身のアジア系劇作家の作品が KKT でも上演されている状況を考慮すると、本土とハワイにおけるアジア系アメリカ演劇の架け橋と位置づけられる。しかしその一方、アメリカ本土におけるマイノリティ演劇の存在意義を主張する EWP などの劇場と、アジア系がマイノリティではないハワイを拠点とする KKT では、劇世界が描く「アジア系」社会にずれが生じることもある。そのような背景を踏まえた上で、KKT から出発した劇作家で、アメリカ本土へと活躍の場を広げてからも、ピジン英語を使用してハワイのローカル戯曲を書き続けてきた Edward Sakamoto に着目し、彼の戯曲のローカル性および人種の混合性に焦点をあてた。

2020年度

2020年度は、2019年3月にハワイ大学にて行った調査を基に、Sakamoto の戯曲におけるローカルリティと人種混合性にさらなる焦点をあてた。さらに、Wakako Yamauchi (1924-2018)、Velia Hasu Houston を始めとして、アメリカ全土で活躍するアジア系劇作家を輩出するきっかけとなった East West Players (EWP) に着目し、今日のアジア系アメリカ演劇における位置づけについて新たな解釈を試みた。EWP は、女性化されたアジア系男性のステレオタイプを打破しようとする一方、アジア系女性のステレオタイプは反復する傾向にあったという点を踏まえ、本研究では、全米初のアジア系演劇集団 EWP の発展と劇場の変遷、アジア系劇作家、俳優の活躍の影にあるジェンダーとステレオタイプの問題に焦点を当てた。この研究成果については、2020年9月に、英米文化学会アジアパシフィックの劇場分科会において発表した。

さらに、メラジアン劇作家が従来の「アジア系」という境界(ボーダー)を超えるという試みをしている点に着目し、能と現代劇の融合を試みた Chiori Miyagawa の *This Lingering Life* (2014) を取り上げ、Miyagawa が現代劇に能の幽玄の要素を取り入れ、亡霊に「追憶」を表現させる意図とその劇的戦略を探った。この研究成果は、2021年3月のアジア系アメリカ文学会(AALA)例会で口頭発表、および同月発行の同学会誌 *AALA Journal* 第26号に発表した。

2021年度

2021年度は、主として2000年以降の Houston の戯曲にみられる母と娘の連帯と女性の自立をテーマとして研究を進めた。*A Spot of Bother* など Houston の戯曲にみられる父親の不在などの要素は、

【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

Tennessee Williams の *The Glass Menagerie* などのアメリカ演劇の古典的作品にも顕著にみられ、アメリカ演劇の伝統を踏襲していると言えるが、自らの人種性をポジティブに捉えることによって女性同士の連帯感と自立心を強め、男性「不在」の世界を敢えて選択するという点に独自性があり、混血に対する人種的偏見への批判と共に、ジェンダー間の偏見についても批判的見方を内包することを明らかにした。さらに、Houston が描く「場所」と人種の問題について考察を進めた。彼女の戯曲 *Asa ga Kimashita* は、アメリカ移住前の日本人家族が描かれ、*American Dreams* と *Tea* ではアメリカに住む戦争花嫁が主人公として設定されている。*A Spot of Bother* は舞台がロンドンに設定されており、白人と東インド系の混血女性が主人公であるが、イギリスは、母娘の連帯が強調される点で歴史性と連続性の象徴である一方、アメリカは、男性の逃亡と家族からの離脱という意味において断続性を表す。以上のような観点から本研究では、Houston が描くアメリカ、イギリス、日本という「場所」と人種性の関連を探った。本研究成果は、2021年10月に小鳥遊書房から出版された共編著書『アジア系トランスボーダー文学: アジア系アメリカ文学研究の新地平』において発表した。

引用文献

- hooks, bell. *Yearning: Race, Gender, and Cultural Politics*. New York: Routledge, 2015.
- Houston, Velina Hasu. *Tea. Unbroken Thread: An Anthology of Plays by Asian American Women*. Ed. Roberta Uno. Amherst: U of Massachusetts P, 1993. 155-200.
- . *A Spot of Bother. Green Tea Girl in Orange Pekoe County: Selected Plays of Velina Hasu Houston*. New York: NoPassport P, 2014. 378-420.
- Janette, Michele. "Out of the Melting Pot and into the Frontera: Race, Sex, Nation and Home in Velina Hasu Houston's *American Dreams*." *Mixed Race Literature*. Ed. Jonathan Brennan. Stanford, CA: Stanford UP, 2002. 86-106.
- Lee, Esther Kim. *A History of Asian American Theatre*. Cambridge: Cambridge UP, 2006.
- Miyagawa, Chiori. *This Lingering Life*. Emily Mendelsohn and Chiori Miyagawa (eds). *Epic Plays: Big Casts & Many Locations*. South Gate, CA: NoPassport Press, 2017. 107-210.
- 小林 富久子「移動・越境・混血—最近の日系女性作家における新しい主体意識」アジア系アメリカ文学研究会編 『アジア系アメリカ文学—記憶と創造—』大阪教育図書、2001年。
- 原恵理子「トランスナショナルなトラウマの演劇表象—ヴェリナ・ハス・ヒューストンの『ティー』から『アフロディテよ』へ」小林富久子 監修『憑依する過去—アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』金星堂、2014年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 古木圭子	4. 巻 31
2. 論文標題 エドワード・オールビーとテネシー・ウィリアムズの戯曲にみる劇的戦略としてのキャンプ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アメリカ演劇』（日本アメリカ演劇学会）	6. 最初と最後の頁 15, 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 古木圭子	4. 巻 26
2. 論文標題 チオリ・ミヤガワの描く幽玄の世界--This Lingering Lifeを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 AALA Journal（アジア系アメリカ文学会）	6. 最初と最後の頁 13, 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Furuki	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 Reading and Readers as Theatrical Strategies in Chiori Miyagawa's Thousand Years Waiting	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『経済経営学論集』（京都先端科学大学）	6. 最初と最後の頁 121, 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20558/00001345	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 古木圭子	4. 巻 31
2. 論文標題 エドワード・オールビーとテネシー・ウィリアムズの戯曲にみる劇的戦略としてのキャンプ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アメリカ演劇』（日本アメリカ演劇学会）	6. 最初と最後の頁 15, 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古木圭子	4. 巻 23
2. 論文標題 ヴェリナ・ハス・ヒューストンの戯曲にみるアメラジアン（混血）性と家族像 A Spot of Botherを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AALA Journal (アジア系アメリカ文学研究会)	6. 最初と最後の頁 25, 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古木圭子	4. 巻 28 - 29
2. 論文標題 チオリ・ミヤガワの戯曲にみる暴力、ジェンダー、家族解体 『女殺し』を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アメリカ演劇 (日本アメリカ演劇学会)	6. 最初と最後の頁 108, 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 East West Playersにおけるアジア系アメリカ演劇の発展
3. 学会等名 英米文化学会 アジアパシフィックの劇場文化分科会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 チオリ・ミヤガワの描く幽玄の世界--This Lingering Lifeを中心に
3. 学会等名 AALA (アジア系アメリカ文学会) 2021年3月例会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 Kumu Kahua Theatreのあゆみとエドワード・サカモトにみるハワイのローカル演劇
3. 学会等名 英米文化学会第37回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko Furuki (Chair)
2. 発表標題 "Humans in a Non-Human Future: Computation, Translation, and The Three-Body Problem"
3. 学会等名 AALA (アジア系アメリカ文学会)「AALA 30周年記念国際フォーラム(国際学会)」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 ヴェリナ・ハス・ヒューストンの戯曲にみる多文化多人種の象徴としての「茶」の役割
3. 学会等名 日本演劇学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 アジア・パシフィックの劇場文化 アジア系アメリカ演劇の拠点としてのクム・カファ・シアター
3. 学会等名 英米文化学会 第36回大会 「アジアパシフィックの劇場文化」分科会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 チオリ・ミヤガワの『女殺し』にみる暴力、ジェンダー、家族解体
3. 学会等名 英米文化学会 第36回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 アジア・パシフィックの劇場文化 アメリカ西海岸およびハワイにおけるアジア系演劇の歴史と現在
3. 学会等名 第3回アジア・パシフィック劇場文化分科会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古木圭子
2. 発表標題 エドワード・オールビーとテネシー・ウィリアムズの戯曲にみる劇的戦略としてのキャンプ
3. 学会等名 第62回アメリカ文学会関西支部大会 フォーラム
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 高橋美帆・瀧川宏樹・古木圭子 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪教育図書株式会社	5. 総ページ数 361
3. 書名 回歸する英米文学- 時代を生き抜く〈学び〉とは	

1. 著者名 貴志雅之編、古木圭子他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 386
3. 書名 アメリカ文学における幸福の追求とその行方	

1. 著者名 山本秀行、麻生享志、古木圭子、牧野理英編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------